

佐竹南家 御日記 第十二卷

自 寛延三年 至 宝暦十二年

「佐竹南家御日記」は、湯沢の所預であった佐竹南家の御用座において天和二年（一六八二）から慶応四年（一八六八）まで書き継がれた公用日記です。地方武士の暮らしや農業、商業、交通、宗教、気象など詳細に記され、当時の社会事情を知る貴重な近世史料です。

本書は、寛延三年（一七五〇）から宝暦十二年（一七六二）までの十三年分を収録しました。

○ 近年不作が続き、百姓どもが困窮しているの
で、白鳥や雁・鴨などを五月まで獲っても良い
ことにした。（寛延三年二月）

○ このたび屋形様が、ご入国されるので、岩崎
から院内まで、道や橋を掃除し、化粧砂を敷く
よう命じた。（宝暦元年五月）

○ 役内村肝煎がお知らせ申し上げるには、当村
に獅猿が多いので、先日、御代官へ鉄砲を御貸
し下さるようお願いしたところ、今回は願いが通
じ鉄砲二挺と火縄を貸していただいた。（宝暦
元年六月）



○ 当十三日より十六日までの、盆中は、夜道を
明かりなく往来しても良い。（宝暦二年七月）

○ 屋形様が少々御不快になられたので、殿様よ
り梨や着、勘貞院様より干鰯鮓を差し上げた。
（宝暦三年八月）

○ 三梨村の桂園寺が昨夜焼失した。（宝暦三年
十二月）

○ 成沢村の罪人の処刑を同所で行うため足軽十
人を派遣した。（宝暦八年十一月）

○ 寛蔵院から愛宕祭礼を、十五日と十六日に執
行したいとの願いが届いた。（宝暦九年閏七月）

○ 大雪で町内に市を開かれないので、田んぼで
行いたいとのことなので許した。（宝暦十二年
正月）

待望の第12巻発売

頒布価格改定のお知らせ
（平成30年4月1日以降）

第1巻～第11巻

改定前 8,000円（税込）



改定後 5,000円（税込）

・ A5判・上製・布クロス装・函入
・ 本文 820 ページ ・ 出版 250 部 ・ 頒布価格 5,000 円（税込）

・ 発行 湯沢市教育委員会

〒012-8501 湯沢市佐竹町1番1号

TEL 0183-73-2163・FAX 0183-72-8515

Mail k-shogai@city.yuzawa.lg.jp